

5. 重点施策



五島市では、平成27年に5年間の計画となる「五島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」(以下「総合戦略」という。)を策定し、人口減少の抑制及び住みよいまちづくりを目指して取り組んでまいりました。令和2年度からは、第2期総合戦略を策定し、引き続き4つの基本目標を基礎として、持続可能な地域社会の実現に向けて人口減少対策に取り組んでいきます。

基本目標Ⅰ

五島の恵みを活かし、雇用を生み出す“しま”をつくる



国境離島法による雇用創出数

285人 → 700人
(平成30年度累計) (令和6年度累計)

地域を支える基幹産業の生産基盤・経営基盤を強化し、担い手が安心して参入できる“しま”をつくる

基幹産業である農林水産業に安心して担い手が参入できるよう生産・経営基盤を強化し、域外から外貨を稼ぎ、地域経済をけん引する産業を目指します。

稼ぐ力の向上を支援し、意欲的な事業者がチャレンジできる“しま”をつくる

起業・創業支援の強化に加え、事業拡大のための地場産業の品質向上、技術革新、流通効率化、6次産業化を積極的に支援し、産業の育成に努めます。

将来の五島市を支える新たな産業を生み出す“しま”をつくる

政府が第5期科学技術基本計画で示したSociety5.0の考え方を取り入れロボットやIoTなどの次世代産業の創出に取り組めます。また、地場産業との連携、関連企業・研究機関等の誘致など、地域経済の活性化に取り組むとともに、外国人やあらゆる世代の労働者にとって働きやすい環境整備を進め、良質な雇用を創出します。

島の恵みを積極的に島外に発信できる“しま”をつくる

農水産品や椿関連商品等、地域資源のブランド化や各種販売促進活動を強化し、大都市圏への流通拡大を図ります。また、都市部への販路拡大と出荷量拡大に向けて輸送コストの低減に向けた支援を行います。

基本目標Ⅱ

五島の魅力を発信し、世界に誇れる“しま”をつくる



観光入り込み客数

240,131人 → 300,000人
(平成30年) (令和6年)

おもてなしの心で、再び訪れたい“しま”をつくる

世界遺産の潜伏キリシタン関連遺産や日本遺産、自然環境、文化、食などの地域資源やジオパークの仕組みを活用した魅力づくりに取り組みます。また、全ての市民のおもてなしの心の醸成と、来島者のニーズに応えられる環境整備を進め、国内外の観光客及びリピーターの増加を図ります。特に外国語メニューの導入や翻訳システムの導入支援など外国人訪日旅行(インバウンド)対策の充実を図ります。

Uターン者をサポートし、住み続けたい“しま”をつくる

高校生は卒業後に、進学又は就職のため島外に流出します。その一方、五島市への移住者は増加傾向にあり、特に30歳代以下の世代が多く移住する動きが見られます。今後も就業や住まいなど、Uターン者の定住に関する不安解消に向け、環境整備の取り組みを強化します。

スポーツを通じて交流する“しま”をつくる

自然環境や社会環境においてスポーツ合宿に適した地であることを発信し、誘致を進め、子ども達には選手との交流により一流の技術を学ぶ場を提供します。また、既存スポーツ施設の改修やトレーニング機器の新設・更新を行うなどスポーツ施設等の充実を図ります。

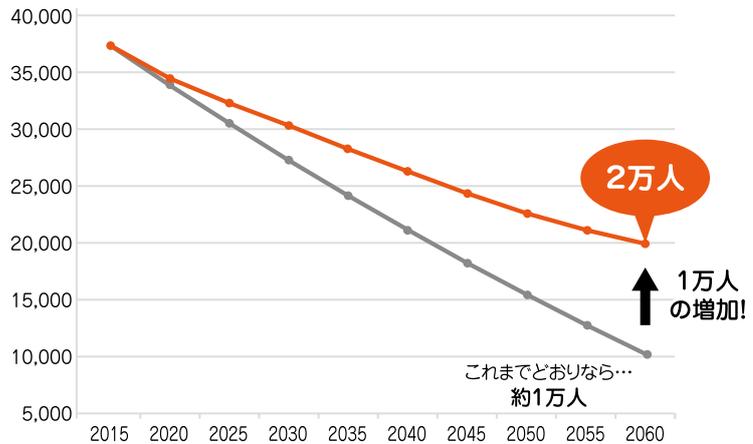
五島の魅力を発信し、国内外から選ばれる“しま”をつくる

五島市の情報を戦略的に発信するため、発信する相手や情報を整理し、効果的な広報活動を推進することで地域ブランドの確立を図るとともに、観光や移住、スポーツ合宿地として選ばれる“しま”を目指します。



将来人口の目標

2060年
人口2万人



基本
目標
Ⅲ

安全・安心で
住みやすさ日本一の
“しま”をつくる



特定健診の受診率

37.0%
(平成30年度)



60.0%
(令和6年度)

地域コミュニティ維持と活性化による絆の“しま”をつくる

人口減少が進む中、安全・安心な暮らしが実現できるように地域が抱える課題等の解決に向け、各地区のまちづくり協議会等に対して支援します。また、ひきこもり状態にある人のいる家族の支援体制を確立します。さらに、五島日本語学校の留学生などの外国人が安心して暮らすことができるよう環境整備を行います。

日本一健康で住みやすい“しま”をつくる

地域包括ケアシステムの構築、認知症対策、地域ミニデイの拡充、見守り体制など地域福祉の充実、健康づくりの推進に取り組み、保健・医療・介護、地域の連携によって、できる限り住み慣れた地域で自分らしく健康で生活することができる環境を整備し、日本一健康な“しま”、日本一住みやすい“しま”を目指します。

障がいのある人もない人も共生する“しま”をつくる

障がいのある人が、身近な場所において日常生活又は社会生活を営むために必要な支援を受けられ、安心して自立及び社会参加できる“しま”を目指します。

島内・島外ともにアクセスしやすい“しま”をつくる

人口減少・少子高齢化が進む中、多様化する市内陸上交通の需要に対し、路線バスの効率化や乗合タクシーなど持続可能な新交通システムの運用を図り、高齢者等の交通弱者が安心して生活できる環境を整備します。また、利用者の利便性の向上のため、新たな航路開設などを要望し、五島つばき空港において航空機の給油機能の整備を検討します。さらに、航路・空路の維持活性化や運賃低廉化の適用範囲の拡大に向けて取り組みます。

社会生活基盤が整備された安全・安心な“しま”をつくる

社会生活の基盤である道路・橋りょう、河川・排水施設、水道、公園、住宅、廃棄物処理、港湾、防災・消防施設、情報通信などの計画的な整備・維持管理を行います。また、国土強靱化計画を策定し、防災体制の充実強化を図ります。

基本
目標
Ⅳ

五島の宝・
子どもが育ち、輝く
“しま”をつくる



合計特殊出生率

1.93
(平成29年)



1.97
(令和6年)

出会い・結婚・出産・子育てを支援し、希望をかなえる
“しま”をつくる

2017（平成29）年の合計特殊出生率は、1.93と比較的高い水準にあります。未婚化・晩婚化、出産・子育てに関する負担などにより、人口置換水準である2.07を下回っています。子育てする家庭が仕事との両立を図り、次世代の宝である子どもたちが健やかに成長できるよう、子育てにかかる負担の軽減など、出会い、結婚、妊娠・出産、子育てを切れ目なく支援し、若い世代が希望を持てる“しま”を目指します。

地域ぐるみで子どもを育て、郷土愛に満ちた子どもたちがいる“しま”をつくる

子育てに係るニーズは多様化する傾向にあり、よりきめ細やかな対応が求められています。このような中、子どもの将来が、その生まれ育った環境によって左右されることのないよう子育て環境の充実を図るとともに、郷土の自然や文化、伝統などに接したり、地域の課題を捉え、その解決に向け活動することで、郷土を育て発展させるような郷土を愛する心を持つ「五島の宝・子ども」を育てます。

教育環境が整備された学びの質が高い“しま”をつくる

小学生からの英語習得事業「プロジェクトG」を推進するほか、ICT教育の強化、さらには県立高等学校の魅力化を図り、グローバル人材の育成に取り組みます。また、「しま留学」を推進し、しまの豊かな自然の中で都会では経験できない活動を通して、心身ともに健康な子どもを育成するとともに、島内外の子どもたちの交流による人材育成に取り組みます。